

JOURNAL

2023 October

特集 ゼミナールは学びを強くする

vol. 37

ゼミナール、どう選ぶ？

- 先輩に聞くゼミ選び—
- アンケートから見るゼミ選び—
- ゼミ入室までのスケジュール—

ゼミナールの研究活動

研究活動から見る日法

法桜祭実行委員会から

探訪！神田三崎町キャンパス

『自主創造の基礎』テキストブックのご案内



特集

ゼミナールは学びを強くする

日本大学法学部 Event Schedule

2023.10 → 2024.3

10	就職指導課	教務課	学生課	研究事務課
		図書館事務課	入学センター	大学院事務課
10月上旬	★時事力・コミュニケーション力養成講座(全4回)	10月～12月まで	永井荷風展	図
10月上旬	★SPI3対策講座(後期コース)③	10月9日(月・祝)	スポーツの日(授業実施日)	教
10月上旬	★SPI3対策講座(後期コース)最終回模試③	10月9日(月・祝)	講義参加型企画	入
10月上旬	★職業適性診断(R-CAP(アールキャップ))受験③	10月10日(火)・11日(水)	履修登録中止期間(後学期開講科目)	教
10月上旬	自己PR作成講座③	10月21日(土)	Web版保護者面談	教
10月上旬	秋冬インターンシップセミナー③	10月28日(土)	第4回定期無料法律相談会	研
10月中旬	自己分析セミナー(第1回) 「自分にあった企業・職種の見つけ方セミナー」③			
10月中旬	自己分析セミナー(第2回) 「自己PR・志望理由の作り方と内定直結の影響力」③			
10月下旬	「会社四季報」を使いたい会社の選び方ガイダンス③			
10月下旬	エントリーシート作成ガイダンス(基礎編)③			
10月下旬	業界・企業・職種研究セミナー(基礎編)③			
11月上旬	日経就活・基礎講座(第2回)③	11月2日(木)	第44回法桜祭 1日目	学
11月上旬	動画・面接選考対策講座③	11月3日(金・祝)	第44回法桜祭 2日目	学
11月中旬	業界・企業・職種研究セミナー(第1回)③	11月3日(金・祝)	オープンキャンパス	入
11月中旬	業界・企業・職種研究セミナー(第2回)③	11月上旬	令和6年3月卒業及び卒業延期に関する手続期間(4年次生)	教
11月中旬	TOEIC講演会		ゼミナール入室申込期間	
11月下旬	業界・企業・職種研究セミナー(第3回)③	11月9日(木)・10日(金)	※第一部・第二部ともに、 11月9日(木)10:00～10日(金)19:00まで。	教
11月下旬	業界・企業・職種研究セミナー(第4回)③			
11月下旬	グループディスカッション講座(座学編)③	11月16日(木)	第5回法務研究科進学相談会	大
11月下旬	★職業適性診断(R-CAP(アールキャップ))解説会③	11月23日(木・祝)	ゼミナール入室試験(休講)	教
11月～12月	業界・企業・職種研究セミナー(第5回)③			
12月上旬～下旬	エントリーシート攻略テストフォローガイダンス③	12月9日(土)	法律討論会	研
12月上旬～下旬	公務員業務説明会	12月16日(土)	第1回学生選考ツアー	図
12月中旬	面接対策ガイダンス③	12月16日(土)	第5回定期無料法律相談会	研
12月中旬	第4回 1年生キャリアプランガイダンス①	12月中旬	1年生英語一斉テスト	教
12月中旬	第4回 2年生キャリアプランガイダンス②	12月25日(月)～ 1月9日(火)	冬季休業	教
12月中旬	内定学生による内定者相談会③			
12月中旬	グループディスカッション講座(体験編)③			
12月下旬	第4回 総合就職ガイダンス(3年生対象)③			
12月～2月	各種業界研究セミナー③			
1月27日(土)	法学部就活セミナー(法学部校友会共催)③	1月～3月	アダム・スミス展	図
		1月15日(月)・16日(火)	補講日	教
		1月19日(金)～24日(水)	後学期末試験期間(20・21日を除く)	教
2月上旬	業界別個人模擬面接③	2月2日(金)	4年次生成績発表 ※WEBにて発表。	教
2月上旬	日経就活・基礎講座(第3回)③	2月3日(土)	第6回定期無料法律相談会	研
2月下旬～ 3月中旬	学内合同企業セミナー③	2月5日(月)～21日(水)	後学期末再試験期間(4年次生)	教
2月下旬～ 3月中旬	学内企業研究セミナー③	2月20日(火)・21日(水)	後学期末追試験	教
		2月23日(金)～ 3月1日(金)	令和6年度転部(第一部・第二部間)・転科選考Web出願期間	入
		2月下旬	法学部ヨーロッパ研修旅行(予定)	学
		2月26日(月)	1～3年次生成績発表 ※WEBにて発表。	教
3月1日(金)	日本大学合同企業研究会・就職セミナー(全学部合同)③	3月18日(月)	令和6年度転部(第一部・第二部間)・転科選考合格発表	入
3月下旬	第1回 総合就職ガイダンス(新3年生対象)③	3月25日(月)	日本大学卒業式・学位記伝達	教
3月下旬	就職指導課キャリア相談員による就活スキル再確認講座③			

※★印は有料で事前申込が必要。 ※詳細は「Live Campus U」、「キャリア支援サイト」でお知らせします。
※対象①…1年生、②…2年生、③…3年生・院1年生、④…4年生・院2年生、無し…全学年

随時開催

オンライン求人紹介セミナー(4年・院2年生対象)
就職指導課相談員への個別相談(就職相談・求人票紹介・面接練習・応募書類添削等)
東京新卒応援ハローワーク相談員への個別相談(就職相談・求人票紹介・面接練習・応募書類添削等)
日本大学就職支援センターによる「公務員相談コーナー」

各行事についての詳細は、各担当課にお問い合わせください。

- 就職指導課 shushoku.law@nihon-u.ac.jp
- 教務課 kyomu.law@nihon-u.ac.jp
- 学生課 gakusei.law@nihon-u.ac.jp
- 研究事務課 kenjimu.law@nihon-u.ac.jp
- 図書館事務課 tosho.law@nihon-u.ac.jp
- 入学センター nyugaku.law@nihon-u.ac.jp
- 大学院事務課 daigakuin.law@nihon-u.ac.jp

期間中の各イベントは変更となる場合があります。その際は法学部ホームページ、「Live Campus U」等でお知らせします。

編集後記

今回は、法学部の「研究」をテーマとして、ゼミナールや研究所の活動に注目しました。大学は教育機関だけではなく、研究機関としての社会的役割を担っていますが、自分と専攻の異なる学生や教員が「実際にどのような研究を行なっているのか」は、なかなか知る機会がないのではないのでしょうか。本号の特集で、社会科学の総合学部とも称される日本大学法学部における研究の多様性を知っていただけたら幸いです。また、11月のゼミナール選考に役立つ内容にもなっていますので、昨年のゼミナール特集号(35号)と合わせて、ゼミ選びにもご活用ください。

(「ジャーナル」編集長 新聞学科准教授 石川徳幸)



日本大学法学部

検索

<https://www.law.nihon-u.ac.jp>

本誌「JOURNAL」のバックナンバーは、法学部ホームページにてご覧いただけます。

2023年10月発行 日本大学法学部広報 通巻145号 発行:日本大学法学部企画・広報委員会

先輩に聞くゼミ選び

ゼミナール選びはどうしているの？
そんな悩みについて先輩方から経験談を語っていただきました。

コツコツまじめに。
課題作りが力に
なっています！



公共政策学科 3年
羽生 千夏さん

浅井直哉ゼミナール
ゼミの専攻(研究領域):政治過程論

ゼミを選ぶきっかけ

ゼミ選びの時、「興味ある分野が広すぎて、どこを選んだらいいかわからない」と悩む友人もいましたが、私は以前より浅井先生の授業で政治学に興味を持っており、より専門的な内容や、深掘りしたことをもっと学びたいという思いから浅井ゼミを選びました。2021年にスタートした新しいゼミで、現在4年生は3名、3年生は13名が所属。自分たちでゼミを作っていく経験ができそうなのもポイントでした。

私のゼミ自慢

ゼミでは、レポートの書き方など基礎的なことから学べています。定期的に、プレゼンの機会がありますが、自分の番で全力を尽くせるように毎回コツコツと準備をしています。課題に取り組みチームメンバーと一緒に、時には編成を変えつつ、目標に向かって発表の準備を進めていく作業も楽しく感じられるゼミです。先輩の研究内容から新しい視点を得られることも、2年間のゼミの良さだと思います。

みんなと一緒に！
さらにゼミを
リードしていきたい



法律学科 3年
小林 新史さん

加藤暁子ゼミナール
ゼミの専攻(研究領域):知的財産法

ゼミを選ぶきっかけ

もともと音楽や芸能が好きだったため、法学の分野で調べを進めていく中で知的財産法に興味を持ちました。ゼミは掲示板とポータルで探し、知的財産法に関する全てのゼミ説明会と公開ゼミに参加。公開ゼミでは「どんな先生か?」「ゼミ生の距離感?」「ゼミでの先生の関わり方」の3つに着目しました。そうして選んだ加藤ゼミは私にとって理想的でした。ゼミの面接では、その分野に興味を持った理由、現在取り組んでいること、大学生活で頑張ったことなどを的確に伝えられると良い結果につながると思います。

私のゼミ自慢

ゼミ長を担当し、ゼミ運営を委ねられていることが私のやりがいとなり、私の自信にもつながっています。ゼミ生の中でも、知的財産分野の知識には差もあるため、その配慮を忘れずにみんなで話し合いながら、遠慮なく意見が言えるような環境作りを心がけています。このようなリーダーシップを経験できることは、社会に出てもきっと役立つと思っています。みんなに支えてもらいながら、ゼミをもっと自由に楽しく発展させていきたいです。

かけがえのない
仲間と先生に
出会えました！



新聞学科 3年
永島 里桜さん

石川徳幸ゼミナール
ゼミの専攻(研究領域):日本ジャーナリズム史

ゼミを選ぶきっかけ

もともと新聞学科に関心があったので、初めから新聞学科系のゼミに照準を合わせていました。授業の中で「日本ジャーナリズム史」に興味を持ち、より専門的なことを学びたいという思いから石川ゼミを選びました。説明会に参加した時の雰囲気がとても良く、また3年生から事前に質問を募集し、説明会内で回答していただいた気配りも、いいゼミだなと感じたポイントです。ゼミの先輩や石川先生がとても丁寧で優しく指導してくださるのがわかり、このゼミなら2年間頑張れると思ったのが決め手となりました。

私のゼミ自慢

ゼミで出会った仲間たちは、今では私の大切な友達です。ゼミ仲間には留学生もいて、同じ研究に取り組んでいることも貴重な経験になっています。また、夏に行われることが多い合宿は春のタイピングで実施されましたが、1泊2日の取り組みを通してみんなとの絆が深まるきっかけになりました。尊敬できる先生に出会い、専門知識を学べるのが、私の一番のモチベーションになっています。費用も合っているこのゼミで、さらに成長していきたいです。

時間は有限。
最短距離で
夢を目指そう！



法律学科 4年
矢野 龍世さん

前高西一馬ゼミナール
ゼミの専攻(研究領域):文化人類学

ゼミを選ぶきっかけ

ゼミを選ぶ際に重視したポイントは、自分の興味や疑問に思っていることについて、「学んで考えること」ができるかという点でした。ありがたいことに日大法学部には、法律学や政治学、経済学等のほか、文学や社会学、文化人類学等の分野も含め、幅広くゼミが存在しています。ゼミ見学や質問会、ゼミを担当している先生へ質問することを通して、学び、考えることができるかどうかを吟味し、ゼミを選択するのが重要だと思います。

私のゼミ自慢

語学力の向上と、ゼミでの研究テーマをドイツで勉強したいという希望があり、現在ヨハネス・グーテンベルク大学に留学中です。人間同士の壁を作る法律やルールについて、ドイツと日本の比較ができたかと考えています。ゼミは日本で1年間、帰国後は半年間の指導です。私は将来を考えて早期卒業制度を活用し、3年で卒業した後には大学院に行きたかったこともあり、時間を無駄にしないよう心掛けてきました。2年間しかないゼミだからこそしっかり選びたいですね。

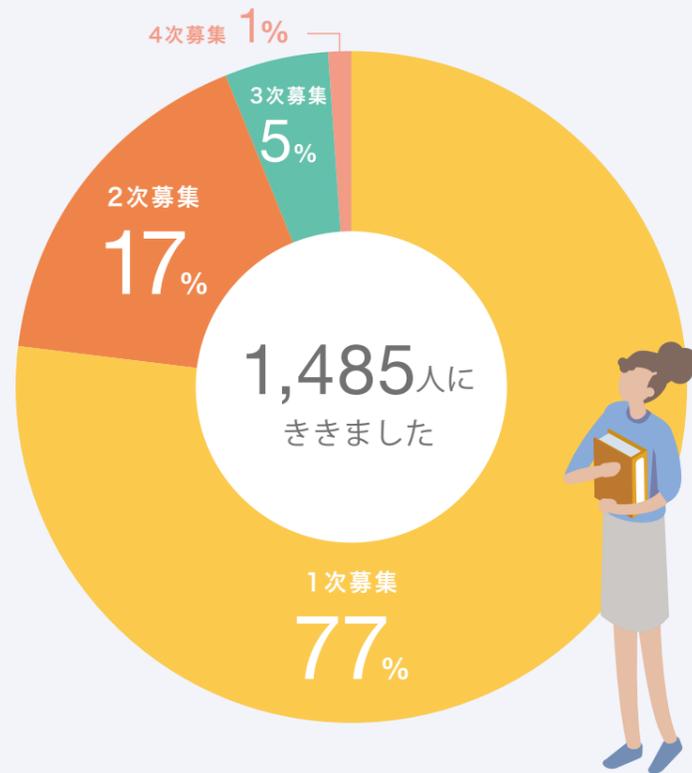


アンケートから見るゼミ選び

Q あなたが所属しているゼミには何次募集で合格しましたか。

参考データ(実際の募集結果)

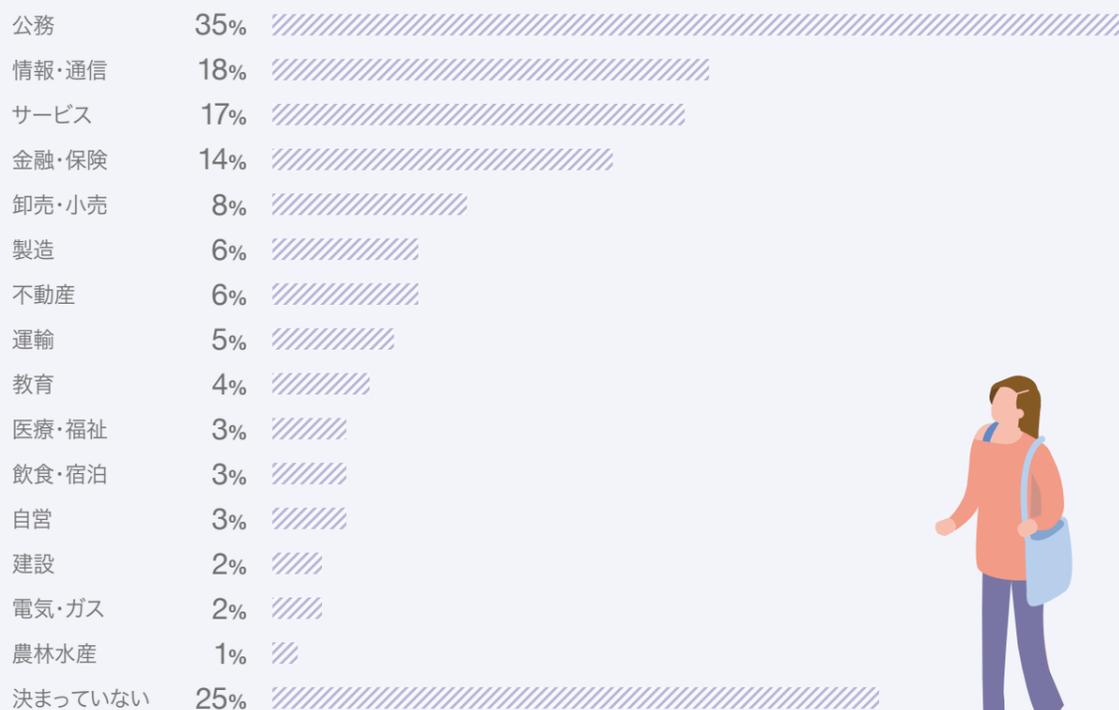
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1次募集	83.0%	70.6%	72.0%
2次募集	15.4%	21.3%	18.9%
3次募集	1.4%	6.5%	7.3%
4次募集	0.2%	1.5%	1.8%
5次募集	—	0.1%	—



Q あなたが所属しているゼミを選択した理由は何ですか？ (複数回答可)



Q あなたが希望している卒業後の進路は以下のうちどれですか？ (複数回答可)



その他(自由記述)

法桜祭のフォーラムが良かったから

サークルの先輩に勧められたから

卒業生の就職実績が良かったから

ゼミ代替項目よりも単位取得が容易だから

ゼミの学外での活動内容に興味を持ったから

友人と同じゼミに入るため

どうしてもゼミに所属したかったから

就職を希望する分野と関係が深いから

高校の先輩に勧められたから

ゼミの方法が良かったから

ゼミの雰囲気が良かったから

先生の授業が良かったから

先生の人柄が良かったから

専門分野に対して興味があったから





ゼミナール、どう選ぶ？

入ゼミまでの スケジュール

本学部のゼミナールは、学科にとらわれず、自分の興味のあるテーマに合わせて選択することができます。
指導教員のもとで少人数の共同研究を行うため、活発な論議やより深い研究を行うことができます。

4th ROUND		2nd, 3rd ROUND		1st ROUND		START	
2024年1月		12月		11月		10月	
四次募集開始		二次・三次募集		一次募集		公開ゼミで、入りたいゼミを探す	
1		1		1		1	
2		2	※一次募集の合格者が募集定員を超えたゼミは、二次募集以降の選考を実施しない場合があります。	2		2	
3		3		3	法桜祭	3	情報収集を始めよう！ SNSを開設しているゼミナールもあるよ。
4		4		4		4	
5	冬季休業	5	2次入室試験 (口述)	5	法桜祭の学生フォーラムではゼミナールの研究発表もあるのでチェックしてみよう！	5	
6		6		6		6	
7		7		7		7	
8		8		8	いよいよはじまる！	8	
9		9	2次募集 合格発表	9	1次申込受付 (Web)	9	
10		10		10		10	
11		11		11		11	
12		12		12		12	
13		13	3次申込受付 (Web)	13		13	
14		14		14		14	合同ゼミナール説明会
15		15		15		15	
16		16		16		16	
17		17		17		17	
18		18	3次入室試験 (口述)	18	行き詰まったら、先輩方にアドバイスをもらってもいいかも。	18	
19		19		19		19	
20		20		20		20	
21		21	3次募集 合格発表	21	入室試験(筆記・口述)	21	合同ゼミナール説明会
22		22		22	1次募集 合格発表	22	
23		23		23		23	
24		24		24		24	
25		25		25		25	
26		26	冬休みにじっくり気力を貯めて	26		26	
27		27		27		27	
28		28		28		28	
29		29	冬季休業	29	2次申込受付 (Web)	29	合同ゼミナール説明会
30		30		30		30	
31		31		31		31	

※四次募集を行うゼミナールのみ

あきらめない！ 道は開ける！

最新情報は「Live Campus U」でチェック！
<https://lcu.law.nihon-u.ac.jp/>



公開ゼミナール / ゼミナール説明会

ゼミナールの研究活動

法学部では担当教員の専門領域と関連して、法律学系、政治学系、経済学系、新聞学系、社会文化学系の約110ものゼミナールがあります。

福島ゼミ

まちづくりをテーマに
課題へのアプローチ方法や考え方を学ぶ

公共政策学科教授 福島康仁先生



Q 福島ゼミのテーマは

ゼミのテーマは、行政と民間が連携した「協働のまちづくり」です。私の専門は都市政策・地方自治論で、いわゆるまちづくりです。まちづくりというのは、自治体だけでなくさまざまな課題解決に取り組んでも住民との間にミスマッチや解決が困難となることがあります。そこでNPOや民間企業などの強みを生かした協力がとても重要になります。

Q ゼミでの学びについて

知識を詰め込むことではなく、切り口や考え方を身に付けることに重点を置いています。例えば、夏合宿では実際に自治体へのヒアリングや住民への街頭インタビューを行います。どうすれば

上手く話を聞き出すことができ、課題を発見できるか、といったことをゼミ生自身で考え実践することで、確実に社会に通用する力が付きます。昨年度は、さいたま市が開催している学生政策提言フォーラムで最優秀賞を受賞し、ゼミ生たちも成長を実感しているのではないだろうか。



Q 就職サポートについて

基本的には、ゼミの運営や就職についてのノウハウは先輩から後輩に伝えてもらいます。人に教えることで、より当事者意識が高まり、自然とゼミ生同士の絆も強まっていくものです。行政や企業で活躍しているOB・OGによる強力な就職サポートは、公務員をはじめ、このゼミの就職力の強さにつながっています。



小阪ゼミ

リアルな企業情報から
学ぶ会計制度

経営法学科准教授 小阪敬志先生



Q ゼミで学ぶことは

企業が作成する財務諸表にはルールがあります。企業の実態を映すため、活動の多様化に応じてルールも改訂が必要で、その変遷や新たな取引の数値化に必要な考え方について、財務会計を制度的な側面から研究する制度会計を専門としています。

ゼミでは実際に企業の会計情報に触れながら、制度について深掘りします。知っている企業を扱うため実感を持って学べます。

Q アカウンティングコンペティションについて

学びの成果を確かめる機会として、3年生は会計学のゼミによる研究発表大会「アカウンティングコンペティション」に参加しています。大会には20以上の大学が集まりますが、私たちはかなり限ら



れた準備時間で臨みます。望んだ結果にならないこともあります。他大学のレベルの高い研究に触れられるのも良い経験になります。第6回では「Pay Pay ㈱の売上高予測」という報告が審査員特別賞を受賞しました。タイムリーな話題にユニークな研究方法で取り組んだのが評価されたのでしよう。

Q ゼミで目指していることは

会計学を面白いと思ってもらうことを目指しています。ゼミ生の約8割が一般企業に就職しますが、学びを活かして銀行系に進む学生も多くいます。また、公認会計士や税理士を目指すゼミ生への助言も含め私でもできる限りサポートするようにしています。

福立ゼミ

データ活用で
行政課題の解決を考える

政治経済学科准教授 立福家徳先生



Q 先生の専門とゼミのテーマは

様々な社会課題について、データを用いた統計分析を行う経済政策の研究が専門です。ゼミのテーマも「データを用いた政策の検討」としており、学生たちは論文の作成を通してデータ分析について学んでいきます。

Q 具体的なゼミの内容は

3年生はグループワークが中心です。グループごとに、多岐に渡る社会課題からテーマを設定。毎年12月に行われる日本政策学生会議（JSF）への提出を目指して論文を制作します。ゼミの時間にはグループごとに進捗を報告。テーマ設定やデータの見方、先行論文の使い方についてなど、4年生や私から助言を受けて論文を仕上げしていきます。



4年生は3年生のグループワークにサポート役として参加するほか、個人論文の準備を進めていきます。就職先に関連した社会課題をテーマに選ぶ学生が多いようです。

Q ゼミの学生を見ていて感じることは

3年生の時点で論文を書き上げたことやグループワークの経験は、その後の就職活動で強みとして活かしているようです。特にJSFは、慶應大学や一橋大学、大阪大学をはじめ、いわゆるトップ校が多く参加するコンペです。そういった場で他大学の学生と肩を並べて研究の成果を発表できることも、確かな自信につながっているのではないだろうか。

研究から見る日法

法学部では専門領域を深く掘り下げる5つの研究所があり、それぞれの特性を生かした研究、広く社会に研究成果を発信するなどの活動を行っています。

共同研究
プロジェクト

共同研究プロジェクトから教育を考える

研究委員会委員長・政治経済学科教授 岩崎 正洋 先生



Q 大学の研究について

大学は教育機関というだけでなく、研究機関でもあります。大学教育が高校までの教育と大きく違うのは、教員が先生であると同時に研究者でもあるということです。日大法学部の場合、法律学科、政治経済学科、経営法学科、新聞学科、公共政策学科と、多彩な学科を有し、専任教員は137名在籍しています。また学部には5つの研究所が附置され、137名の教員一人ひとりが研究者として、日々専門分野を研究しています。



Q 共同プロジェクト発足の経緯について

これまで、日大法学部の研究所は必ずしも研究所間での横断的な議論を行ってきたわけではありません。そこで今年度から2年間、SDGsをテーマにした共同研究プロジェクトが始まり、分野横断的な研究を行うことになりました。この共同研究では、各研究所の学問領域だけではなく、語学や総合科目の領域の教員も参加して広く学際的な議論を行うっていくこととなります。5学科5研

究所がある日大法学部だからその専門的で広範囲、そしてオリジナルな知見が引き出されることに期待が高まっています。また研究の成果は、研究者自身の見識を広げるだけではなく、教育の現場にも反映されていくことを目指しています。

Q 自主創造とは

繰り返しますが、大学は研究機関です。学問は研究を土台にしており、教育が学びを導きます。例えるならば、学びというのは、研究という土壌に深く根を張り、教育という養分で強い幹を育てることです。そうすることで、「可能性」という枝葉を広げていくことができるのではないのでしょうか。自らの頭で考え、学び、課題に取り組む学生たちを、私たち教員は研究者として教育者として全力で支えていくこと。それが日大法学部の教育理念「自主創造」であるといえるでしょう。



法学
研究所

法学ならではの社会貢献と 資格受験サポート

法学研究所 所長・法律学科教授 加藤 雅之 先生



Q 法学研究所の研究について

法学研究所は所員の数が多いため、専門分野で8つの研究会に分かれています。それぞれ研究活動を行っています。しかし近年、AIやSNSなど日々新たなトピックが出てくる中で、個々の研究会だけではなく、分野横断的な議論を活性化することも必要になってきました。新たな問題を考える上では、他分野の研究者と議論することは非常に重要であり、学際的な知見を得ることで研究面とともに、教育面にも大きく反映されています。

Q 活動内容は

活動内容は、政経研究所と共同で「法学紀要」の刊行や、社会貢献活動の一環として、一般の方向けの無料法律相談会を開催しています。弁護士資格を



持っている教員とロースクールの教員が、司法科研究室的な学生と共同で開催しており、学生にとって良い実地教育にもなっているようです。

Q 資格受験サポートについて

法学研究所では、司法書士科研究室と税理士科研究室の二つの学生研究室を管轄しており、学生の資格受験サポートに積極的に取り組んでいます。また本学にありがたいことに、本学では伝統的にOBOGが資格受験を強力にサポートしてくれま。最近では難関資格である司法書士試験に合格者が出るなどの成果も見えてきました。

政経
研究所

研究所は、 研究と教育をつなぐ役割

政経研究所 所長・政治経済学科教授 松元 雅和 先生



Q 政経研究所の活動は

今年度、政経研究所には35名が所員として所属しています。専門分野に応じて、政治研究会、経済研究会、公共政策研究会に分かれており、各研究会での研究発表や外部スピーカーを招聘しての学術的な交流、そして研究所内での共同研究などが主な活動です。

Q 法学紀要について

研究成果を掲載する論文集「法学紀要」を、法学研究所と共同で発行することも重要な活動の一つです。大学には研究機関としての重要な側面があり、我々も教員であると同時に研究者なので、学内外への研究成果の発表も重要な仕事です。ぜひ学生にも法学紀要など、本学の刊行物を読んでいただき、教員の研究者としての側面を知って



いただければと思います。普段、講義を聞く際に、その先生がどんな研究をしているかを知ること、より深い学びがあるはずですから。

Q 研究所の役割とは

学生にとっては、研究所と言われてもピンとこないかもしれません。しかし学生研究室の中の、行政科研究室と公認会計士科研究室は、政経研究所が運営しているのですが、そちらには馴染みがあるのではないのでしょうか。つまり、見えないところで研究と教育をつなぐことが研究所の役割なのだと思います。

研究から見る日法

法学部では専門領域を深く掘り下げる5つの研究所があり、それぞれの特性を生かした研究、広く社会に研究成果を発信するなどの活動を行っています。

比較法研究所

大学の研究こそ教育のもととなる

比較法研究所所長 法律学科教授 河合利修 先生



あります。以前、私のゼミ生が参加した時には「すごく刺激になった」と感動している様子でした。学生にとっては少し難しい内容でしたが、実際の研究に触れたことで、学問の本質的な面白さを感じてもらえたのだと思います。

Q 大学での研究と教育について

比較法研究所では、1983年以降、欧文紀要(Comparative Law)を約40年間にわたり発刊しています。教員は教育者であると同時に研究者でもあり、研究



Q 比較法研究所の目的と活動は

「比較法」については様々な定義ができるのですが、日大法学部は比較法研究所の場合は「日本と外国」、あるいは「外国と外国」の法律の比較、研究をしています。そして、重要な活動の一つに、年に複数回、外国の研究者を招聘することで、相互交流を図り国際的な知見を得ることを目的とした研究会の開催があります。

Q 学生の研究会への参加について

研究会には、専門の研究者だけではなく、学生に参加してもらうことも



成果を発表することは非常に大切な仕事です。

大学には研究の場という重要な役割があります。研究は学問を深めることであり、つまるところ教育のもとなのです。そういった意味でも、それぞれの研究所での研究が教育の場に活かされていることは、本来の大学の在り方だと言えるのではないのでしょうか。



新聞学研究所

教育の理想は 研究との連動にある

新聞学研究所所長・新聞学科教授 塚本晴二郎 先生



Q 新聞学科について

新聞というと、一般的には新聞紙のことを思い浮かべることが多いと思いますが、英語で新聞学科は「デパートメントオブジャーナリズム」で、ジャーナリズム学科という意味です。司法、立法、行政に次ぐ、フォース・プランチとされ、民主主義の根幹を支えるシステムであるジャーナリズムを研究しています。日大法学部では1947年に学科として設けられました。そして2007年に研究所、次いで2010年には大学院が設立されています。

Q 学生の研究所利用について

研究所では、2011年の東日本大震災の日以降、24時間365日、東京キー局とNHKの放送を録画した映像アーカイブを保有しています。また



日本新聞協会が運営している新聞博物館とも連携しており、収蔵庫に保存されている一般公開されていない資料を閲覧することも可能です。どちらも本学の学生や院生は利用できます。

Q 研究所の役割とは

新聞学研究所は、学術的な研究をする場であると同時に、教育と研究を限りなく連動させるためにあると私は考えています。現在は研究指導部門を設けて、研究の方法論を学生に指導していますが、今後はもう一歩踏み込んで、学生や院生と一緒に研究に取り組める環境にしていければ理想的ですね。

国際知的財産研究所

最新の研究で 教育領域にも広がり

国際知的財産研究所所長・経営法学科教授 加藤浩 先生



Q 国際知的財産研究所の設立経緯は

特許権・意匠権・商標権・著作権からなる知的財産権は、2000年頃を境に注目されるようになりました。特にインターネットの普及によって、模倣品や海賊版など知的財産権を侵害する例が急増。法の整備が現状に追いついていない部分があり、企業の対策や個人への教育・啓蒙が急務となっていました。日大法学部では2007年に、知的財産法の研究機関として国際知的財産研究所を設立しました。なお、国際知的財産研究所では、学生研究室として弁理士科研究室も運営しています。

Q 研究内容の事例は

例えば、企業にとって技術や情報などの知的財産は大切な資産です。特にスタートアップ企業においては独自の

技術自体が資金調達につながるため、知的財産の扱いが事業継続の鍵となります。今年6月には、特許庁の担当者と本学出身のスタートアップ企業の経営者をお招きし、議論を行いました。研究所ではこのような研究会を年5回ほど開催。研究会では、研究者だけでなく、弁理士、弁理士、企業および官庁の実務家の方々もお招きし、毎回違った視点から語られる知的財産に触れたり、議論に参加したりすることで、教員・学生の知見を深める機会となっています。

Q これからの知的財産権分野について

これは例ですが、「AIが描いた絵画の著作権は一体誰なのか。そこに著作権はあるのか。」というように、技術の進歩とともに新たな問題が生まれてくるなど、これからの領域が広がっていく分野です。知的財産をめぐる課題は、社会で大きな議論になることもありますが、最新の研究を教育に活かしていくことが重要だと考えています。





なぜ、ここに大型ビジョン?

法学部のランドマークである図書館。その出入り口の脇に大型の屋外ビジョンが設置されていることは、法学部生なら誰でも知っている(?)と思いますが、「レビジョン」という正式名称はあまり知られておらず、知名度はいま一つといったところのようです。私たちの大学生活に何気なく存在しているレビジョンですが、実は私たちが一番目にしやすい場所に計画的に建てられています。学びの中核となる図書館の前というだけでなく、10号館から本館へ移動する際の視線の先にあり、本館から2号館へ移動する際にも道すがら目にする事ができるといった、まさにキャンパスのハブとなる場所に位置しているのです。

レビジョンには、学生に法学部の「今」を伝える動画が提供されており、今秋からは新たな取り組みとして「ゼミナール紹介」が放映されます。来春には「サークル紹介」の放映が予定されていますので、ぜひこの機会に、足を止めてレビジョンを覗いてみてください。

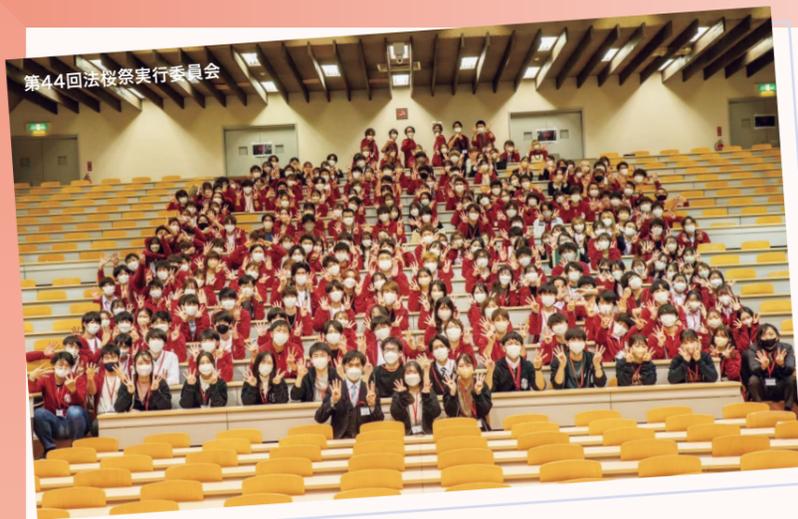
第1回

知ってる?
図書館前の「あれ」は何?

探訪! 神田三崎町 キャンパス

街がキャンパス

ヨーロッパの歴史ある大学の多くが街の中にキャンパスを構えて学生街を形成しているように、日本大学法学部も神田三崎町に根差した都市型キャンパスを特徴としています。今回から複数回にわたり、神田三崎町キャンパスの知られざる一面にフォーカスしていきます。



第44回法桜祭実行委員会



第44回

法桜祭

11/2 Thu. ↓ 3 Fri.

今年のテーマ

またたき
瞬

この一瞬を大事に

昨年度は約3年ぶりに対面での開催、さらに一般客の入場が可能になりました。例年通りの開催をできなかったこの3年間で、学生生活はあっという間に過ぎてしまうと実感しました。そのような中で、実行委員会と参加してくれた方々が、この一瞬を大事に思い返せるような学部祭にしたいという思いを込めて、「瞬(またたき)」というテーマのもと、日々準備を進めております。

今年度は更にパワーアップし、模擬店や規制のないアーティストライブなど、より一層盛り上がる企画を開催します。

法桜祭は私たちだけでなく、支えてくださるすべての方々のご協力があったからこそ法桜祭です。来てくださる方々に



笑顔で楽しんでいただくために、全力で本祭まで駆け抜けていきます。

第44回法桜祭をどうぞよろしくお願いたします。

第44回法桜祭実行委員長
小林まどか

[最新情報はここから]



法桜祭HP

✕ @phoenio
◎ @2023phoenix44

テキストブック

自主創造の基礎

日本大学 法学部

勁草書房

自主創造の基礎

「テキストブック 自主創造の基礎」が大幅改訂!

2023年初春、「テキストブック 自主創造の基礎」が刊行されました。今まで以上に実践的、且つ具体的なノウハウがまとめられており、学修の考え方から具体的な作業の仕方まで、大学での学び方を体系的に身につけると同時に、専門的な研究の手引きとしても役立ちます。

研究者としての教員を通じて

48名の教員が「私の研究」または「私と研究」をテーマに執筆したエッセイを掲載。教員の研究者としての一面を垣間見ることができただけでなく、研究との出会いや向き合い方などを通じて、学びの本質や自主創造のあり方が浮かび上がってきます。学修を導く必読の章です。

まさに必携の書として

「日常生活でスマートフォンを常に操作をするのと同様に、大学での学びは、常に本書に触れば済むと言えるだろう」(はしがきより)。本書を常に手元に置いておくことで、新たな課題への挑戦や、また学修に行き詰まった時など、必ず学びの道を示してくれるでしょう。